



# GREEN LETTER

グリーンレター

**Vol. 280**

2020/6/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

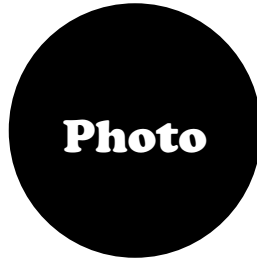
GREEN COLUMN

01. 白の表現

02. ミズバショウとホテル



今月の一枚



## 「堤防地にて」

表紙写真・文／久保田結衣

美幌町在住の画家 横森政明は、堤防を舞台にした油彩画を多く制作しました。作品には、曇天<sup>どんてん</sup>の空の下、青々と芝が茂る堤防の上に、人物などのモチーフがポツリと描かれています。

横森は、どのような空気を感じながらキャンバスに向き合ったのでしょうか。ある作品には、傘を差している人もいたなあ…季節は今ぐらいかな…？気になって、雨上がりの空気を味わいながら、階段を登って景色を眺めてみるのです。

# Event. 今月のイベント

特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」～10月25日(日)

ロビー展「お宝見せます」～6月30日(火) ※展示期間延長しました

プチ工房「ドングリマグネット」 6月5日(金), 6日(土)

博物館講座(自然編)「親子写真教室」 6月27(土)

博物館講座(歴史編)「縄文土器を作ってみよう」 7月4(土), 8月1日(土)

特別展ギャラリートーク 6月28日(日)

# Information. 参加者募集

プチ工房「ドングリマグネット」

●6/5(金), 6(土) ①10:00-11:00, ②11:00-12:00, ③14:00-15:00, ④15:00-16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円), マスク ●町田善康(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(6/2-6/4)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員6名で締切。

博物館講座(自然編)「親子写真教室」

●6/27(土) 10:00-12:30 ●美幌博物館, みどりの村 ●保険代(100円), 野外で活動できる服装(長袖・長ズボン・帽子), 筆記用具, マスク, デジタル一眼レフカメラ(※推奨。スマートフォン・コンパクトカメラでも可) ●前川貴行(動物写真家) ●美幌博物館へ電話申込み(6/2-6/24)。対象は美幌町に在住のご家族6組。定員になり次第締切。

博物館講座(歴史編)「縄文土器を作ってみよう」

●【土器作り】7/4(土) 9:30-11:30, 【野焼き】8/1(土) 9:30-14:00 ●美幌博物館 1F 講座室, みどりの村キャンプ場 ●材料費・保険代(600円), マスク, 汚れても良い服装, 【土器作り】タオル, 【野焼き】軍手, 昼食, 飲み物 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(6/2-7/2)。対象は中学生から一般。小学生以下は保護者の同伴が必要。定員6名で締切。

特別展ギャラリートーク

●6/28(日) ①10:00-11:00, ②11:00-12:00, ③14:00-15:00, ④15:00-16:00, ⑤16:00-17:00 ●美幌博物館 ●無料, マスク ●前川貴行(動物写真家) ●美幌博物館へ電話申込み(6/2-6/28)。対象は中学生から一般。小学生以下は保護者の同伴が必要。各回定員12名で締切。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。また、各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。事前に博物館へお問い合わせの上、ご参加ください。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日

1日, 8日  
15日, 22日  
29日

## 01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



### 白の表現

作品／横森政明・文／久保田結衣



**作**品における白の使い方は、作者によって大きく異なります。白の表現は多岐にわたり、白色の絵の具は、実はたくさんの種類があります。例えば、チタニウムホワイトやパーマネントホワイトは、地の色を覆うほどの<sup>いんべいりよく</sup>隠蔽力があり、メインで用いたり、明るめの混色やハイライトとして使用されることが多いです。ジンクホワイトは、青みがかって見え、冷たくスタイリッシュな趣があります。成分に亜鉛が含まれているため、ひび割れを起こしやすく、扱いがやや難しいという特徴もあります。

常設展示している横森政明(1927-)の作品は、モノトーンを基調とした作品が多く、白の絵の具も多く使用されています。《馬と人(一人)》(1964年)は、背景に白い絵の具が用いられ、やや青みを感じられることから、ジンクホワイトが使用されているように思い

ます。青や赤が淡く織り交ぜられ、不思議な奥行きが感じられます。

岸本裕躬(1937-2011)の作品は、横森と比較すると、全体的に鮮明な色の絵の具が使用されています。眼が醒めるような鮮やかな配色の中に、白色が映え、独特の存在感を放っています。

異なる表現をしたのが、水彩画家の納直次(1910-1996)です。納は、不透明水彩で北海道の風物を描くなかで、ウシ、花、空模様で白を多く取り入れています。白い絵の具を使わずに画用紙の地を活かしています。地のままでも、周りの色彩と調和し、ありのままの北海道の風景が感じられます。

少々マニアックですが…作者ごとに、色の使い方に注目して作品を鑑賞するのも、また一つのおもしろい見方といえるかもしれません！

## 02 GREEN COLUMN

グリーンコラム



# ミズバショウと ホタル

写真・文／鬼丸和幸



気づいてみれば、早くも晩春で  
すね。新型コロナの影響で、  
あまり外出しなかったせいか、今年の  
春は、何だかあつという間だったよう  
に思われます。

美幌町周辺では、いったいどんな環  
境で、ヘイケボタルが生活しているの  
でしょうか。7～8月の成虫が活動す  
る時期、夜な夜な湿地を歩いては、成  
虫が発する光を、目視で探しながら確  
認する調査を続けています。これまでの  
調査で、美幌町内の約30か所でヘ  
イケボタルの生息が確認できています。

調査していてわかったのが、美幌町  
内でヘイケボタルが見られる場所の多  
くは、樹木が比較的まばらで、ミズバ  
ショウが生えているような明るい湿地  
だったということ。ミズバショウが生  
えている場所は、地面の水分条件も安  
定し、エサとなるような貝類、水生の  
昆虫類、カエルなどの両生類も多く見

られることから、ヘイケボタルにとっ  
て、良好な生息環境を提供しているよ  
うです。

4～5月にかけて、あらためて美幌  
町内でミズバショウが生えている場所  
を探してみました。美幌町内には、あ  
ちらこちらに、ミズバショウが見られ  
る場所が点在しています。中でも、高  
野地区や田中地区に残る湿地では、ミ  
ズバショウの大群落が見られる場所が  
あります。今回は、古梅地区の美幌川  
上流域や、日並地区の田中川上流域な  
ど、いくつかの地点で新たにミズバ  
ショウが生えている湿地を見つけるこ  
とができました。

果たして、これらの湿地にはヘイケ  
ボタルが棲んでいるのかどうか…7～  
8月にかけて、確かめてみたいと思い  
ます。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



福岡出身の私は、ラーメン豚骨派。「家政夫のミタゾノさん」によると、醤油ラーメンスープに、豆乳・ラードを混ぜると、豚骨味になるというので試してみると…本当に豚骨スープそのものでした。それからというもの、インスタント醤油ラーメンに、豆乳・ラードを混ぜて食べています。

(鬼丸)